

平成 30 年度松阪市環境パートナーシップ会議全体会 議事録

日 時 : 平成 31 年 1 月 28 日 (月) 午前 10 時 00 分～正午

場 所 : 松阪市産業振興センター 3 階研修ホール

出席者 : 25 会員 (委任状提出会員 28 名)

市民 6 名

朴恵淑 (会長)、天野雅仁、大北芳秋、田中茂、中北喜彦、
三口貴久代

市民団体 5 団体

碧川の自然・環境を守る会、嬉野アイリス、
松阪市自治会連合会 (3 名)、
松阪・松名瀬海岸再発見プロジェクト、
まなび～環境@松阪

事業者 14 社

愛知機械工業株式会社、株式会社大戸、
株式会社ぎゅーとら、シャープ株式会社、
住友理工株式会社、セントラル硝子株式会社、
株式会社第三銀行、株式会社田上材木店、
東邦ガス株式会社、マックスバリュ中部株式会社、
松阪飯南森林組合、松阪香肌商工会、
松阪農業協同組合、松阪農業公園ベルファーム

オブザーバー 1 名

三重県松阪地域防災総合事務所
(代理: 環境室長 和田一人)

事務局 5 名

環境課長 (荒川浩和)、政策係長 (徳田剛士)
政策係員 (前川嘉紀)、政策係員 (土谷健太)
政策係事務員 (後藤えみり)

〈講 演〉

※朴会長から挨拶

皆さん、おはようございます。私の住んでいるところは松阪市ではなく津市ですが、皆さんの活動は新聞、テレビ、ラジオ等を通じてよく存じ上げています。松阪市環境パートナーシップ会議という言葉は非常にわかりやすい言葉のようですが、何をするといいのだろうか考える方も多いと思います。この会議のメンバーである私が思うのは、今後の取り組みについて本日皆さ

まと共に考えたいということです。松阪市環境パートナーシップ会議も 10 周年で派手にファンファーレを鳴らすのもいいとは思いますが、そういうものではありません。過去の 10 年間を振り返り、国内のみならず国際的な動きも見ながら松阪市の強みは活かし弱いところは補っていき、今後 100 年を見据えた形での活動をしていくようなパートナーシップ会議になれば良いと思います。冠に「環境」という言葉がつきますが、こちらについても原点に戻って一緒に考えたいと思い、30 分ほどの時間ではありますが貴重な時間をいただくことになったため、よろしくお願い申し上げます。

～講演～

事務局：朴先生、ありがとうございました。皆様の拍手を持って御礼と代えさせていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは、全体会に移ります前に、5 分程度休憩をはさみたいと思います。恐れ入りますが、11 時 5 分までにお席にお戻りいただきますようお願いいたします

〈議 事〉

事務局：ただいまから、平成 30 年度松阪市環境パートナーシップ会議全体会を開催いたします。皆様におかれましては、本日はお忙しいところ本会にご出席賜りますことをお礼申し上げます。まず、本会議の現在の会員総数 56 個人団体に対し、本日の出席人数は、25 個人・団体、委任状によるもの 28 個人・団体でございますので、本会議の規約第 10 条第 3 項の規定により、出席会員及び委任状提出会員が過半数に達しており、本全体会が成立していることをご報告いたします。それでは、環境パートナーシップ会議全体会の開催にあたり、松阪市環境課長・荒川からご挨拶申し上げます。

※荒川環境課長から挨拶

事務局：続きまして、会議の会長であります、三重大大学教授朴恵淑からご挨拶申し上げます。

会 長：挨拶も兼ねて先ほど話をさせていただきましたので、早速本題に入らせていただこうと思います。今年もよろしくお願い申し上げます。

事務局：それでは議事に入ります前に本日の配布資料の確認をさせていただきます。※配布資料確認。

それでは、議事の方に入らせていただきます。朴会長、よろしくお願い致します。

会 長：記録を取る関係でマイクを使わせていただきます。よろしくお願い致します。今日の議題は 2 つあります。平成 30 年度の活動報告と平成 31 年度の活動計画の 2 点になります。資料に基づいて事務局からの説明をしていただき、その後皆様からの意見・質問等を承り、次に進めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。事務局より平成 30 年度の活動報告をよろしくお願いいたします。

事項 1：平成 30 年度の活動報告について

※事務局及び各プロジェクトのリーダー及びサブリーダーから活動報告。

※新規加入者紹介及び挨拶。

会 員：松阪・松名瀬海岸再発見プロジェクトの小西と申します。私たちは、ボランティア団体であり、元々は県の水産関係の職員とボランティア団体、そして学校の教員が集まって、松名瀬海岸を再発見しようという活動をさせていただいております。現在ほとんどの活動を三重中学校と三重高等学校が行っており、朴先生の講演の中で紹介していただいた活動内容でさせていただいております。現に私も三重高校、三重中学校教員の立場として関わっております。よろしくお願い致します。

事務局：ありがとうございます。なお、中村様につきましては本日ご都合により欠席されておりますので、ご挨拶の方は省略させていただきます。事項 1 につきましては以上になります。

会 長：ありがとうございます。会員仲間を増やしていくというのは良い事です。活動報告について皆様から質問やコメント等はございますか。

会 員：質問・意見なし。

会 長：よろしいでしょうか。平成 30 年度の活動報告と平成 31 年度の計画は連動していると思うので、もしその際に活動報告についてのコメントや質問等があれば承りますのでよろしくお願い致します。それでは資

料 5 の平成 31 年度の活動計画について、引き続き事務局から説明をよろしくお願い致します。

事項 2：平成 31 年度の活動計画について

※事務局より説明。

会 長：ありがとうございました。質問や補足説明、提案等でも構いませんのでいかがでしょうか。

会 長：私の方から一つ、質問ではなくお願いになりますが、もってこに！マイバッグ（レジ袋有料化）検討会のことについてです。取り組み開始から 10 年以上経っているにも関わらず、レジ袋の辞退率が 90%を維持しており、環境負荷低減というのは定着していると思います。これは松阪市民の皆様や行政、事業者や団体の協力によるものであり、毎バッグの持参率向上を受けて、レジ袋購入の収益金が減ること自体は良い事ですが、環境パートナーシップ会議がプロジェクトをやっていく上で、レジ袋購入の収益金で全て賄うことは厳しくなるでしょう。すでに市の予算からも活動資金を出資していただいておりますが、平成 31 年度の緑のカーテンプロジェクトにおいても継続の見込みはあります。また、今後についてどのように考えればよろしいでしょうか。まだ決まってないということであれば見込みとしてでも構いませんが、大丈夫でしょうか。

事務局：平成 31 年度につきましては今のところ昨年同様の活動を行う予定で考えています。来年度の苗配布については、レジ袋有料化検討会からの支援金は減少を続けており、約 300 株減少する見込みです。数を減らすなどの対応をしながらも活動は継続していきたいと考えております。

会 長：ありがとうございます。相可高校等へお願いしている種から苗を育てる活動は継続して協力いただけるのでしょうか。

事務局：はい。そちらについても継続致します。現在、協力をお願いをしている福祉作業所が 4 つほどございます。また、これまでと同様に相可高校にある農業関係の学科には大口でお願いしています。ただ、一株 100 円程度かかっているため、そちらについてはレジ袋の収益金から支援をいただきながら続けていきたいと思っています。

会 長：ありがとうございました。それでは平成31年度の活動計画について承認してもよろしいでしょうか。

会 員：承認

会 長：承認いただきありがとうございます。私から松阪市環境パートナーシップ会議の活動がどれだけすごいことなのか一言申し上げます。ベルファームで行われた環境フェアへ市の予算を割いていただき、ありがとうございます。環境フェアに4000人を超える来場者があったということですが、一つ例を挙げながら申し上げます。毎年12月は地球温暖化防止月間ということで環境省がクールチョイスという取り組みを推進しています。各都道府県には、環境大臣からの委嘱で温暖化防止活動推進センターというものがあり、三重県にも環境保全事業団の中に三重県地球温暖化防止推進センターがございます。ここでは三重県主催の環境フェアをメッセウイングで行っており、来場者は8000人に達すれば大成功です。他の都道府県にあるセンターに比べると倍近くの来場者数ということで評価は高いです。みえ環境フェアは三重県全体の約180万人の人口が対象で8000人程度の来場者、一方松阪市は16万人程度の人口が対象で4000人を超える来場者ということは、どれほど凄まじいことでしょうか。環境パートナーシップ会議の会員の力もあると思うので、これを継続して松阪の底力を見せて下さい。よろしく願い致します。

会 長：それでは、承認もめでたくいただきましたので、いろいろ大変だと思いますが、今後もよろしくお願い申し上げます。あとは、その他になりますが、何かございませんか。

事項3：その他

事務局：その他についてですが、事項2の平成31年度の活動計画について承認をいただいたということで、来年度以降の活動についてもプロジェクト制で進めてまいりたいと考えております。早速ではございますが、来年度の活動に向けてプロジェクトメンバーの募集を行いたいと思います。これより係の者から申込用紙をお配り致しますので、期限までにFAX、メール等で事務局までご提出いただきますようお願い致します。

す。またパートナー会員募集のポスターも事務局でご用意しておりますので、掲示にご協力いただける会員様がいらっしゃいましたら全体会終了後の事務局までお声掛けいただきますようお願い致します。その他については以上です。

会 長：資料はお配りされましたでしょうか。よろしくお願い致します。それでは最後に新年ということと副会長のご尽力なしでは活動できないということで副会長から一言お願い致します。

会 員：先にいくつか提案を申し上げてもよろしいですか。

会 長：どうぞ。

会 員：1 つ目についてですが、朴先生がセンター長の三重県地球温暖化防止活動推進センターですが、現在この推進員を 2 月 7 日まで募集しています。私も A 会員さん入っていますが、残念ながら松阪市の参加は 4 名です。三重県全体で 66 名の活動推進員がいます。2 月 7 日までまだ時間がありますので、ホームページから募集要項をダウンロードしていただき、ぜひ皆さまにご参加していただくようよろしくお願い致します。活動内容としては、先ほども紹介のありました環境フェアは津や伊勢でも開催されており、その応援等があります。ぜひ、一人でも多くの参加をよろしくお願い致します。2 つ目はエコ検定についてです。環境社会検定試験が 7 月と 12 月の年に 2 回ございます。私も取っておりますが、これは公的な資格ですので、企業の皆様もこのような資格があるということを認知し、資格を取得する方向で考えてみてください。また、学生の皆さんにもこの資格を取得すれば就職にも有利に働くというような好循環を作っていただくように認知をしていただきたいと思います。3 つ目は先ほどもありましたように、パートナーシップ会議の会議という言葉在省いたらどうかという話を前年させていただきました。目的は、パートナーの会員を増やすことです。残念ながら先ほどもありましたように会員は増えていません。そこで啓発活動の中でもいろいろ話をさせていただきましたが、この会議に参加することはなかなか難しい場合がございます。緑のカーテンコンテストや環境フェア等のイベントがあり、人手がたくさん必要になりますので、松阪市環境パートナーという形を作ってイベントの手伝いをしていただくようなシステムを考えたいと思います。皆様の周囲に

も会員として参加していただく人がいれば良いですが、準会員のよう
に環境パートナーとして認定できるようなものを、今後作ってはどうか
という提案をさせていただきます。最後でございます。松阪市には
松阪新電力というものがあり、これは松阪市のゴミを電気に変えるとい
う素晴らしいものでございます。現在は市の公共施設に電気の供給
をされていると先日の新聞でも見ましたが、FIT 制度もちょうど 2019
年度に終わりますので、供給先を広げて市民にも循環させ、エネルギ
ーの地産地消、電気の地産地消を更に進めるようにするためにも、こ
の会議に松阪新電力の参加を望みます。以上 4 点、よろしくお願いします。

会 長：ありがとうございました。いろいろ考えてみたいと思います。その他
に感想やアナウンス、あるいは何かのフェア等がありますか。

会 長：では、副会長から締めくくりをお願いします。

副会長：失礼します。環境パートナーシップが皆さんからのご理解とご協力を
いただいておりますこと、深く御礼申し上げます。報告に
もあったように活動がなかなか浸透しないのが現状であると思ってお
りますので、今後も皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。
自治会の方も緑のカーテン等あらゆる面で浸透するように、これから
PR していきたいと考えていますので、皆さんも今後ともよろしくお
願い申し上げまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。

会 長：時間があるため 1 分程度で良いので、オブザーバーの和田さん一言お
願いします。

オブザーバー：松阪地域防災総合事務所環境室長和田でございます。日頃から
環境パートナーシップの会議、そして会員の皆さんの活動に私も参加
させていただきながら勉強もさせていただいています。県の環境行政
は建設的に進めてきておりますが、最近一つ気付いたこととお話しさ
せていただきたいと思います。資源の循環やゴミの減量化の活動、朴
先生のレジ袋の活動も含めて大きく時代が進みました。朴先生の議論
にもあるマイクロプラスチックの問題であるとか、特にそういった
様々な社会の変革は確実に進んでいるというのが今の状況です。そう
いった状況を機敏にとらえて、皆さまの生活の中へ取り入れていって

いただけるように、ぜひお願い致します。今日もよろしくお願い致します。

会 長：和田さんが良い提案と良いコメントをしていただきましたので、1 程度の話をします。マイクロプラスチックについては皆様もご存じだと思います。例えば松阪のレジ袋に関わる取り組みがどれだけすごいのかということ国連の SDGs というところでお話をさせていただきましたが、参考のためにもう一つ話します。EU においては環境先進地域、環境先進国ということで環境について様々な取り組みをしています。松阪市では 10 年ほど前にレジ袋削減に取り組み始めましたが、当時は一人あたり年間 300 枚ほどのレジ袋が使われているというデータでした。そのときの EU、特に西ヨーロッパのいわゆる先進国では一人あたり年間 200 枚ほどのレジ袋を使っているということでした。10 年前のスタート地点では、日本が 1.5 倍以上使用しているということでしたが、それから 10 年が経ち、松阪市を例に挙げると 90% 以上も削減しています。現在は年間 30 枚ほどの使用です。しかし、私たちよりはるかに先進国地域である EU はどうかというと、現在も 200 枚近くレジ袋の使用があります。日本や松阪のすごいところはやればできるということです。EU が今どこで学ぼうとしているかということ、三重県で学ぼうと、松阪で学ぼうとしています。11 年後の 2030 年までに EU が掲げるレジ袋削減目標は 50% です。何が言いたいかというと、モデルや先進地は私たちが作るということなのです。気が付かないことを一生懸命やっていた結果が、気が付いたらこうなっておりますので、人の意識を変え、人を育てる、皆が活気のある地域を作るというテーマのサミットがもし開催されるとしたら、真っ先に三重県松阪市になるのではないのでしょうか。

また、マイクロプラスチックに関してはいろんな方がいろんなことをやっていますが、そういうところにおいて私たちもちょっとアピールしてみたいなと思うことが 1 つあります。現在、環境パートナー通信は日本語のみの発行ですが、中国語、韓国語、英語、スペイン語、アラビア語、ロシア語等、様々な言語に翻訳できるようにボランティアを一生懸命探しています。完璧な訳ではなくてもいいので、松阪市の HP でも多言語の対応ができるように検討、調整していただきたいと思っています。もし他国が三重で学ぼう、松阪で学ぼうということになれば、松阪市がリーダーシップを取ることになると思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。ちょうどいい時間になりました

ので、これをもって平成30年度松阪市環境パートナーシップ会議全体会を終わらせていただきます。平成31年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

事務局：ありがとうございました。本日はお忙しい中、お越しいただきましてありがとうございました。平成31年度の活動におきましても皆様との協働で活動を進めて参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。以上をもちまして本日のパートナーシップ会議全体会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。